



2023年12月8日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州連合 第33回定期大会

変化に対応し将来に希望が持てる活動を推進しよう！

JR九州グループ労働組合連合会（JR九州連合）は11月29日、福岡市内で第33回定期大会を開催し、「JR九州グループを取り巻く変化に着実に対応し、安全・安心で将来に希望が持てる活動を推進しよう！」をスローガンに、新年度の活動方針を満場一致で確認した。

冒頭、挨拶した吉田祥司会長（JR連合副会長・JR九州労組中央執行委員長）は、①安全の確立、②JR連合への総結集と組織の強化・拡大、すべてのグループ会社における集团的労使関係の確立、③労働条件の改善と産業政策課題の実現、そのための政治活動への参画、について所信を述べた。とくに2024春季生活闘争に向けて「いかに継続的な賃上げに繋げるかが課題だ。JR産業の魅力高められるよう、正々堂々と要求して取り組もう」と力強く訴えた。



あいさつする吉田会長（左）と荻山会長（右）

JR連合からは荻山市朗会長が出席し、①コロナからの回復状況と次なるパンデミックに備えた国への働き掛け、②JR産業の持続的成長に向けた産業政策に関する提言、③連合の「5%以上の要求方針」を踏まえた「物価上昇をカバーする賃上げと適正な価格転嫁」など2024春季生活闘争に臨む考え方、④組織の充実・拡大と労使信頼関係の重要性、について提起した。

議事では、幹事会から提起された議案に対して代議員から、①要員不足に苦勞する駅の適正な人員配置とJR九州サービスサポートからJR九州への転籍に係る課題、②BRTひこぼしラインの運行に関わるIC対応、保安システムの課題、獣害対応、③ホテルにおける労働需給のアンバランスと課題など、グループ労組が直面する重要課題について、JR九州連合に解決を求める切実な発言があった。



これに対し、鎗光俊勝事務局長（JR九州労組中央執行副委員長）の回答ならびに総括答弁を経て、全議案が満場一致で採択された。その後、新役員や大会宣言が採択され、吉田会長の「団結がんばろう」で閉会した。